

■北畠親房 公卿、武将。後醍醐天皇の没後、回復めざし、南朝の正統を主張した「神皇正統記」ほか膨大な執筆。

きたばたけちかふさ

平禅門の乱・1293= 生。父は権大納言師重，母は藤原隆重女。

..... 1302= 9歳：

..... 1307=14歳：父師重の出家により北畠家の家督を継ぐ。弾正大弼に任ぜられる。
將軍追放交替1308=15歳：従三位，

..... 1310=17歳：正三位，
..... 1311=18歳：左近衛督に任ぜられ，檢非違使別当を兼ねる。さらに，権中納言に任ぜられる。
..... 1312=19歳：従二位，

北条高時執政1316=23歳：正二位，

後醍醐天皇・1318=25歳：_後醍醐天皇が即位し，第2子世良親王の養育にあたる。

..... 1320=27歳：
_後醍醐天皇の信任厚く，

..... 1323=30歳：_曾祖父以来の極官権大納言に昇り，
正中の変・1324=31歳：_それを超えて大納言に任ぜられ，源氏氏長者を象徴する淳和・奨学兩院別当も兼ねた。

疎石円覚寺・1329=36歳：

..... 1330=37歳：_養育に当たっていた親王が早世し，出家する。
元弘の変・1331=38歳：この直後，元弘の乱おこり，天皇は隠岐に流されるが，

鎌倉幕府滅亡1333=40歳：親房は建武新政成立後半年たって長子顕家が義良親王を奉じて陸奥に下るのに同行するまで，全く活動の跡をのこしていない。独自の政治思想から天皇専制体制をめざす天皇と，旧来の上級貴族の合議制を是とする親房の間の路線上の相違にその原因を求める説が有力である。

南北朝分裂・1336=43歳：*足利尊氏の謀反によって上洛，天皇とともに吉野に入り，以後南朝の中心人物として活躍するが，

足利尊氏將軍1338=45歳：_石津の戦に顕家が戦死し，次子顕信とともに義良親王を奉じて東国に向かうが，海上で難破し，ただ一人常陸に漂着。

後醍醐天皇没1339=46歳：*関東在陣中，吉野で後醍醐天皇が死去したことを聞き，政策的には隔りをもちながらも，天皇個人にはつねに献身的な愛情をもちつづけていた親房の打撃は大きく，「神皇正統記」を著す。

..... 1340=47歳：*「職原鈔」を著す。この間，大宝等の諸城に拠って東国へ南朝軍の結集につとめ，一時はかなりの成功をおさめる。白河の結城親朝に参加を促しつづけるために書かれた70通以上の書状が伝来しているが，これは中世史上個人から個人へあてられた書状としては最大の量であり，もし他の武士にも同様の勧誘がなされたとしたら，「神皇正統記」「職原鈔」の執筆と相まって，親房の旺盛な執筆能力は驚くべきものがある。

..... 1343=50歳：この頃，_関東を脱出，吉野へ還る。
_以後数年の動静明らかでないが，「元元集」「熱田本記」「東家秘伝」「古今集新注」などを述作したらしい。

..... 1347=54歳：
_建武新政ころ活躍した南朝方の武士はほとんど亡く，親房は南朝内部の主戦派の頭目的存在となり，

観応の擾乱始1350=57歳：_直義が，つづいて，

..... 1351=58歳：_尊氏が南朝に講和を申し入れるに際し，その折衝を指導する。観応の擾乱前後の幕府の分裂に乗り，

観応の擾乱終1352=59歳：*京都を奪回，久しぶりに入京し北朝3上皇を捕らえて河内に送り，高野山に所領を寄進し顕家の冥福を折る。この頃，准三后の宣下をうけたらしいが，それも東の間，義詮の反撃に敗走し賀名生にもどり，

..... 1354=61歳：_没した。